

【KT-report 18】 4 団体に対する助成額の再検討

先に取り上げた任意独立団体に対する助成金支給の有り方について、抜本的見直しを考察しました。現行助成金支給 4 団体にしても、もう一つの問題は、配分の根拠が明確にされていないことです。そして、それぞれの団体 1 人当たりの支給（受給）額に大きな乖離があることです。私が執行三役で係った平成 27 年度の状況を平成 31（R 元）年度決算に当て嵌めて見ると、団体の会員数（概数）で支給額を除した 1 人当り支給単価は、3 千円程度が 2 団体、その 4 倍程度が 2 団体です。こんな不公平があつて良いのですか？ 一番のポイントは配分金額の根拠です。私の知り得る限りでは確たる根拠を示されず、お手盛りの金額を提案されて拍手で決定されて来た状況にあります。

そこで、次の様に考察して見ました。現行、助成金支給 4 団体に対する助成金再配分シミュレーションを行って見ます。図－1 を参照のこと。

2 パターンについて次の初期条件で試算して見ます。

- ・ A～D 団体の合計の規模感は現実と類似ですが、個別具体的にはどことも対応していません。
- ・ ここでは、現行総額 530 千円を変えないで試算します。会員総体は 100 人とします。支給の平均単価は現行 5,300 [円/人] (530,000÷100) となります。

現行、助成金支給 4 団体に対する助成金再配分シミュレーション								
その 1	大項目	項目	単位	助成金支給団体				計
		A	B	C	D			
	一人当たり単価を同一化	会員の人数	人	45	30	15	10	100
		支給単価	円/人	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300
		金額	円	238,500	159,000	79,500	53,000	530,000
		割合	%	45.0	30.0	15.0	10.0	100

その 2				重み	A	B	C	D	ウ エ イ ト （ 重 み ） 付 け
	a	会費徴収の有無	有	1.00	1.00	1.00	1.00	0.00	
			無	0.10					
	b	助成金の割合（%）	0<○≤25	1.00	1.00	0.75	0.25	0.25	
			25<○≤50	0.75					
			50<○≤75	0.50					
			75<○≤100	0.25					
	c	飲食代の割合（%）	0<○≤33	1.00	1.00	0.50	0.10	0.10	
			33<○≤67	0.50					
			67<○≤100	0.10					
	d	町内会に対する貢献度(重い1.0、中0.5、軽0.1)			1.00	0.50	0.50	0.10	
	e	以上 4 項目の重み配分の和 (a+b+c+d)			4.00	2.75	1.85	0.45	9.05
	f	重みの再配分			0.44	0.30	0.20	0.05	1.00
	g	金額の新配分	(現行基準)	234,254	161,050	108,343	26,354	530,000	
		(圧縮)	220,994	151,934	102,210	24,862	500,000		
		千円単位に丸める		221,000	152,000	103,000	25,000	501,000	
		割合		44.1	30.3	20.6	5.0	100.0	
	h	一人当りの単価		4,911	5,067	6,867	2,500	4,836	
	i	〃 最大値と最小値の比		6,867÷2,500=2.7倍					— — —

図－1

実際の適用に当たっては、まずは厳格な前提が必要です。それは、正確な会員数の把握です。各団

体からは自署した会員名簿（住所、氏名、電話番号、認印）を提出して貰い2年に1回見直しを行うことにします。

☑改善案その1

現行支給総額 530 千円をベースに、登録会員数で除した支給単価を算出します。今、5,300 [円/人] の同一とします、単純に支給金額=会員数 [人] ×5,300 [円/人] となります。これでは、単純に人数が多いほど多額となることから、人数の水増し報告があり得ます、弊害の一面です。現行の根拠の無いお手盛りよりはましです。世の中、図-2 のとおりです、「職員数や利用者数をごまかす」とあります、要は人数を水増しするのです。



図-2

☑改善案その2

その1における人数の水増し弊害の懸念を排除し、より客観性を取り入れる視点から、図(表)-3 のおりの「ウェイト(重み)付け」が有用（有効）です。ここでは、a 会費徴収の有無、b 助成金の割合、c 飲食代の割合、d 町内会に対する貢献度の4項目（因子；factor）としています。執行部は、しがらみを断ち切って、是々非々を明確にして対応すべきです。是々非々の数値評価が「ウェイト(重み)付け」なのです。

評価項目	意味合い
a 会費徴収の有無	助成金以外の会費の徴収有無で2値化する。 助成金だけに頼った会は重み=0とする。
b 助成金の割合	aに通じる点があり、全体の予算規模（活動費）に対して、助成金の割合が小さいということは、自主財源の確保に努力していることであり、評価点を傾斜配分する。
c 飲食代の割合	全体の予算規模（活動費）に対する飲食代割合が大きいほど評価を下げる。
d 町内会に対する貢献度	より本会事業活動にとっての必要度を評価する。趣味的に近い会（グループ）は評価が低いとする。

図(表)-3

実際の「ウェイト(重み)付け」については、対立する恐れがありますので、次のようにします。

- 1；全会員に対する無記名アンケート形式で投票して貰う。
- 2；最高と最低をカット（切り捨て）し、平均を以て予め定めたウェイト配分に摘要する。

結果、図-1の下段g欄の新配分のとおりとなります。結果の配分単価には差異が生じるようになります。これは「ウェイト(重み)付け」が奏功し当然のことです。現行の4倍差異に比べれば、2.7倍に改善されます。例えば、最大と最小の幅を2倍以内にしたいというのであれば、上限を設定し

て調整することも可能であります。要は根拠を明確に公開した上で、評価項目を設定したウェイト付けによる差異はあってしかるべきで、納得するというものです。

☑改善案その 3

「〇〇愛好会」についても、上記同様の考え方をベースにしつつも、図(表)－4のような考え方もあります。「ウェイト付け原資単価（上乘せ分）」に前記図－1のと通りのウェイト付けの考え方を適用するのです、つまり、「固定分＋変動分」の考え方です。

	助成金支給団体	愛好会
【固定分】 基準支給単価；1人当り	1，000円	1，000円
【変動分】 ウェイト付け原資単価（上乘せ分）	4，000円	5，000円
計（仮置き／試算スタート時）	5，000円	1，500円
図(表)－4		

=====

私は、会員の大半（90%以上）が理解納得出来るようにするためには、評価項目を設定し「ウェイト(重み)付け」を行って配分（支給）するのが公平性担保の要諦になると考えていますが、“ そんな面倒くさいことはやらなくても良い。 ”という人が多いのかもしれませんが、そうであれば、少なくとも「☑改善案その1」の方式にするようにして欲しいものです。

(end)